

第2期佐呂間町まち・ひと・しごと創生総合戦略

佐呂間町役場企画財政課

はじめに

佐呂間町は、北海道の北東部、オホーツク総合振興局管内のほぼ中央部に位置し、北方一帯は道内最大の湖である「サロマ湖」に面しており、東西31.3km、南北18.2kmの丘陵地の多い総面積404.94km²の町です。

サロマ湖沿岸は海岸性気候、山沿いの地域は内陸性気候となっており、2024(令和6)年の平均気温は6.9℃で、最高気温は36.0℃、最低気温は-24.2℃と年間での気温差は非常に大きくなりますが、降水量は649mmと少なく、オホーツク海に流水が訪れる時期には、サロマ湖が全面結氷する厳寒期を迎え、最低気温が-20℃を下回る日も記録されます。

本町では、気候風土を活かした酪農や畑作、肉用牛の飼育などを中心とする農業や、オホーツク海やサロマ湖における漁業が基幹産業となっており、サロマ湖で採れるホタテや牡蠣は、湖内での養殖許容量を定め、持続可能な漁業が推進されています。

網走国定公園内で最高峰の幌岩山にあるサロマ湖展望台からは、サロマ湖と砂洲で隔てられたオホーツク海が眼前に広がり、知床連山も望むことができます。



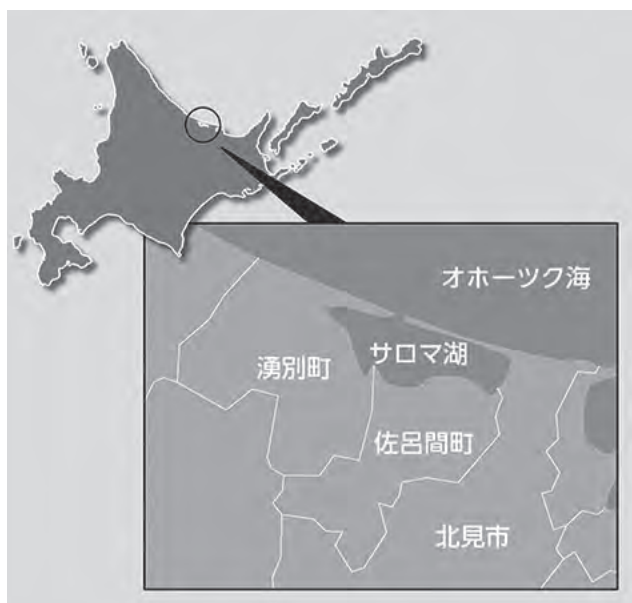
サロマ湖展望台からの眺望

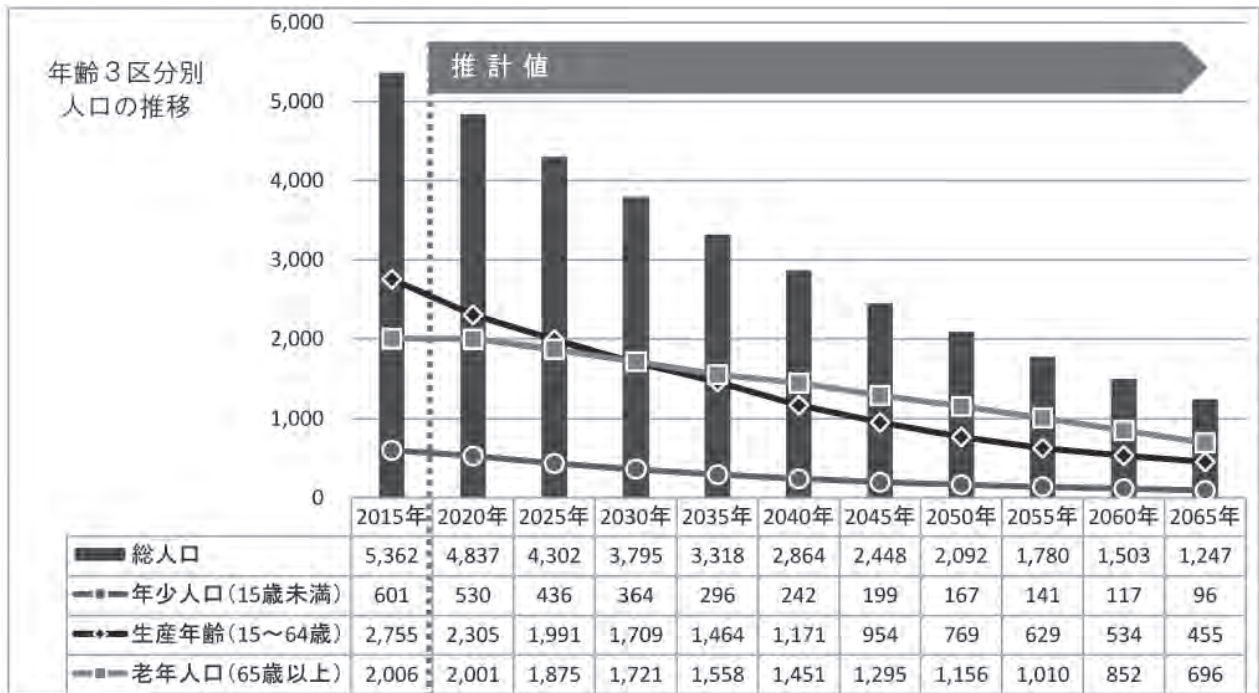
人口の推移

本町の人口は、1955(昭和30)年の15,656人をピークに減少に転じ、その後の約60年間で3割強程度の人口規模となりました。

その要因として、死亡数が出生数を上回る自然減と転出数が転入数を上回る社会減の状況が続いていることが挙げられ、このまま進行していくと町民の生活、産業振興、財政運営等に大きな影響を与えることが懸念されます。

第1期総合戦略策定時2015(平成27)年に公表された人口推計(社人研準拠推計)では、総人口は、2040(令和22)年に3,671人、2060(令和42)年には2,558人と推計されており、その後、第1期総合戦略には反映されていない2015(平成27)年の国勢調査結果をもとに、「コーホート要因法」を用いて2018(平成30)年に公表された人口推計(2045(令和27)年までの推計)によると、2040(令和22)年の推計値は2,864人とされており、本町の人口減少スピードは、第1期総合戦略策定時より加速している状況にあります。





この状況を踏まえ、本町が見据える将来人口の実現に向け、各種施策の実施により人口減少の抑制を図るため、第2期佐呂間町まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定しました。

佐呂間町まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要

第1期総合戦略に掲げられた自律性、将来性、地域制、直接性、結果重視の施策を切れ目なく実行するため、第1期の効果検証による成果や課題を踏まえ、第1章の佐呂間町人口ビジョンにおいては、人口減少のスピード抑制により、将来の人口展望を2030（令和12）年には3,900人（総合計画目標人口）、2040（令和22）年時点で、3,000人を維持するという将来人口の目標を設定し、第2章の佐呂間町総合戦略においては、人口ビジョンで設定した将来の人口展望を実現するために目指すべき方向と実効性が期待できる施策をまとめ、第2期総合戦略を策定しました。

また、国の総合戦略を勘案し、効果の高い施策を集中的に実施していくこととするため、「第2期総合戦略」の計画期間は、2021（令和3）年度から2025（令和7）年度の5年間としています。

なお、「総合計画」をまちづくりの最上位計画と位置づけ、総合的・計画的なまちづくりを進めているため、人口減少の克服・地方創生を目的としている「総合戦略」は、「総合計画」を基本とする計画として位置付けています。

基本目標と具体的な施策

【基本目標1】`地域産業の振興により、

多様な雇用を創出する、

本町では、15歳～24歳までの若年層の転出超過が他世代と比べて多く、その大半は進学によるものですが、卒業後に希望する就職先が不足している状況にあります。

安定的な就労環境の創出には、関係機関との連携が不可欠であり、雇用の場の確保及び就労の安定化を促進するため、基幹産業の担い手の育成・確保などに取り組み、労働希望者が少ない農産・水産加工施設における労働力確保に努めます。

また、行政と関係機関が連携し、町内での購買力を高め、商店街の活性化を図るとともに、町内商工業の経営基盤強化に努めます。

《基本施策》

- (1) 農林水産業の振興と担い手の確保
- (2) 商店街の活性化、中小企業・小規模企業の振興と労働力の確保



【基本目標 2】`地域の魅力を生かし、 新たな人の流れをつくる、

オホーツク認知度調査による「サロマ湖」の認知度の高さを活用した本町のブランド力向上を目指し、「佐呂間町サポーターズ倶楽部事業」や「佐呂間町ふるさと納税事業」などによる関係人口、交流人口拡大施策と「サロマ大収穫祭」や「さろま秋宵まつり」を始めとした町内イベントによる観光振興や、首都圏・都市圏、経済交流都市で開催される各種イベントに参加し、本町のPR活動を積極的に推進します。

また、移住・定住対策として、既存の交流人口拡大施策やPR事業に加え、「地域おこし協力隊制度」の導入により、「佐呂間町を知ってもらう」施策から一歩進んだ「佐呂間町を訪れ、体験してもらう」施策の推進に努めます。

《基本施策》

- (1) 関係人口・交流人口の拡大
- (2) 地域資源を活かした観光の推進
- (3) 移住・定住対策の推進

【基本目標 3】`結婚・出産・子育ての希望をかなえる、

今後も出生数の減少が予測されることから、この状況を変えるため、結婚を望む人が出会い・結婚できる

ような取り組みへの支援を行い、妊娠・出産・育児の経済的支援や子育て支援の充実を図りながら、安心してより多くの子どもを育てていくことができる支援策を推進するとともに、地域が一体となって子育てしていくような環境づくりにより、親が誇りをもって子育てできるまちづくりを推進します。

《基本施策》

- (1) 若い世代が交流する機会や出会いの場の創出
- (2) 出産・子育て支援
- (3) 教育環境の充実

【基本目標 4】`安心して住み続けることが できる地域をつくる、

クリニックさろまや歯科医院を中心とした医療体制の確保・充実に努め、第二次医療圏、第三次医療圏との広域連携を推進し、町民の健康を守るための体制を維持するとともに、住民の健康意識の向上を図るため、「健康教室」や「サロマゲンキマイレージ事業」など老若男女を問わない町民が自主的に健康づくりに取り組むための環境づくりを推進します。

また、少子高齢化が進む中において、高齢者の単身・夫婦世帯が増えることが予想されるため、高齢者が安心して生活できる環境整備や見守り体制の充実を図ります。

なお、全ての住民が「安心して暮らし続けることのできるまちづくり」を目指し、「持続可能な地域コミュニティの形成」と「住民の命と健康を守るための施策の推進」、「防災無線整備事業」など災害に強いまちづくり施策を推進していきます。

《基本施策》

- (1) 住み慣れた地域で暮らせる包括的な支援、地域医療体制の充実
- (2) 子どもから高齢者まで誰もが学び、集い、活躍できる地域を形成
- (3) 質の高い暮らしのための機能整備
- (4) 防災体制の充実による安全安心なまちづくり

取組事例 1

【佐呂間町サポーターズ倶楽部】

佐呂間町サポーターズ倶楽部は、町外に住んでいる本町にゆかりのある方や関心を寄せている方、興味を持たれている方を町のサポーターとして会員登録し、町の魅力や特産品などの情報を定期的なお知らせにより深く知ってもらうとともに、本町の広告塔として情報発信してもらい、関係人口、交流人口が増えることによる来訪者の増加や特産品の購入により、地域を支える一員を担ってもらうことを目的としています。

現在の会員数は、本町の総人口に迫る4,000人を超えており、さらなる広がりによる、認知度の向上が期待されます。



取組事例 2

【佐呂間高等学校進学・就学サポート事業】

佐呂間高校に進学する生徒を応援するため、各種施策により支援しています。

○支援対策1「佐呂間高等学校卒業生修学応援補助金」

卒業後、翌年度又は翌々年度に大学や短大・専門学校へ進学する場合、大学は年額50万円、短大・専門学校は年額25万円の修学に関する資金を助成

○支援対策2「佐呂間高等学校入学者給付金」

入学者に対して、学校生活に必要な資金として一人一律10万円を給付

○支援対策3「佐呂間高等学校卒業生就職等応援給付金」

卒業後、就職や就職のための学校へ進学する方へ、準備資金として一人一律10万円を給付

○支援対策4「佐呂間高等学校在校生対象の教科書無償提供」

在校生が授業で必要とする教科書について、町で購入し提供

○その他の佐呂間高等学校への支援対策

- 1) 模擬試験・資格取得検定受験料の補助
- 2) 部活動遠征費補助
- 3) 佐呂間町学校体育文化活動費補助
- 4) 姉妹校交流派遣事業（派遣費用の補助）



おわりに

第5期佐呂間町総合計画のタイトルである「自然の恵みに感謝し、人が人を支え、共に創る、生涯の郷、サロマ」を念頭に、人口減少下において懸念される担い手不足による基幹産業の衰退や町内購買力の低下、少子高齢化などの様々な諸課題も踏まえたうえで、次世代に引き継げるよう、持続可能なまちづくりを進めていきます。